

たわわ



地域で生きる障害者を支える会通信

発行 2004年3月30日

43号

「地域で生きる障害者を支える会」会報

住所：横浜市港北区下田町6-31-8

活動ホーム「しもだ」内

TEL 045-562-3600

FAX 045-562-5991

## 第2よつばホーム出発

---ようやく建物が完成！よつばホーム運営委員会が運営---



3月になってから一日がぐんと長くなったような気がします。朝が早くあけ、日の暮れるのもおそくなりました。日中の気温は、まさに三寒四温、忙しい現代人にはちょっと厳しい季節だったかも…… それも後数日で年度が替わり、春爛漫の4月です。皆様にはお元気でお過ごしでしょうか。

さて、私たちが取り組んできた二つ目のグループホームも、ようやく出来上がりました。第一館目のグループホームからセセラギのある緑道に沿って3分ほど歩くと、セピア色の壁にダークグリーン屋根、やや横に長い家が姿をあらわします。今回は家を建てることの大変さも学び、多くの方々にいろいろとお世話になりました。ここに心より感謝申し上げます。

備品も用意し、明日から活動できるという状態になりましたので、今後は「よつばホーム」運営委員会へお渡しし、私たち「支える会」の役目は、また“見守り支援する事”になります。なお二館目にかかった人材養成のための費用をはじめ、建設に必要とした経費などについては総会で詳しくご報告いたします。

重い障害者が地域の中で生き生きと暮らすためには、ほんとに多くの支援が必要です。これからはむしろ私たち「支える会」の力を必要とするところかも知れません。

\* \* \*

よつばホーム運営委員会が開かれ「第2よつばホーム」と名前も決定しました。

地域の連合町内会の自治会長さんたちにもご説明し、民生委員の皆様にも入居者ともどもご挨拶とご支援をお願いいたしました。3回目の地域交流の集いミニバザーも年々少しずつ参加者がふえています。

建物が出るのは最初の一步。これからのいよいよ新しいグループホームのスタートです。会員賛助会員の皆様の変わらぬご支援をおねがいします。

## 社会福祉計画に当事者の意見を

港北区社会福祉協議会事務局長 門倉 晴義

平成12年に成立した社会福祉法では、福祉サービスを措置制度から利用制度に移行することなどを内容とした「利用者本位の社会福祉制度の実現」とともに、「地域福祉計画の策定」を内容とした自治体ごとの総合的な地域福祉の推進がその制度改革の大きな目的とされています。

港北区においては、平成16～17年度にかけて地域福祉計画が策定されることとなっています。

「地域福祉計画」は行政の計画ではありますが、施策の企画、実施、評価の過程において可能な限り住民参加の手法を取り入れ、その成果を地域住民に還元していくところが従来の行政計画にない大きな特徴です。

社会福祉協議会は、これまで地域の方々とつくる民間の福祉活動の方向を示した「地域福祉活動計画」の策定はじめ、地域の福祉を推進する様々な取り組みを行ってきました。

本年、社会福祉協議会は地域福祉計画策定の事務局の一員として、地域住民や関係団体と協働し、住民参加による地域福祉計画づくりでどのような役割を果たすかに私たちの真価が問われることとなります。

地域の生活者として「よつばホーム」の皆さんも、地域福祉計画に反映できるように、当事者の願いや思いを取りまとめ、地域住民や行政・関係機関へ伝えていく活動に取り組んでいただけることに期待しております。



### 地域交流のバザー盛況におわる！

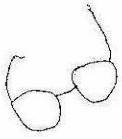
山田 きち

第3回地域交流バザーが3月27日「よつばホーム」の庭で行われました。場所が狭いため1週間前から雨天の時はどうしようと悩んでいました。その悩みも嘘のように晴れ、お客様がたくさん来てくれる事を願って準備に入りました。開店時間前からお客様が入り急いで軽食の支度。

雑貨や衣類がたくさん並び皆楽しそうに売り、買い物をしていました。今年は入居者もフランクフルトやコーヒー、ケーキを売り、ボランティアさんは焼きそばを作ってくれて楽しそうに参加していました。最後に売上金を聞き皆大喜びでした。

この様に沢山の人がよつばホームまで足を運んでくれるということは、新吉田町の住民として皆様の仲間入りができただけではないかと思っています。

2館目の「第2よつばホーム」もスタートします。1館目とすぐ側なのでお互い協力し合っていけたらいいなと思います。これからも末永くよろしく願いいたします。



## めがねのこえ

横浜障害者プランのシンポジウムがありました。どんな人も 地域の中で 同じように暮らすことが 出来るようになるための計画だそうです。

よつばの運営委員もしていただいている石渡先生が講演をして、そのあと このプランを作ることに 参加した人たちが 少しずつ話しました。

「むかし施設にいる人を お正月などに 家へ遊びに連れて来たとき、楽しそうにしていた障害者が、帰りの車の中ではためいきをつきながら帰った」とグループホーム連絡会の室津さんが話されたのを聞いて、 私は胸がいっぱいになりました。ほんとに「暮らすところは 喜んで帰れるところでないといけない」と思います。

私は たまたま 室津さんたちのはじめたグループホーム「本牧生活の家」を古い家のころから 見せていただいた ことがありました。

そのころは まだグループホームも 3 つぐらいしか ありませんでした。私は まだ 17 才ぐらいの時に、それから 新しい家が出来て、ときどき 泊めていただいたこともあったので 懐かしく思い出しました。

入居している 障害者の人たちも、いっしょうけんめい外にも出ようと頑張っていました。今もずっと 頑張っているのだなと 思いました。

今は 私たち、重い障害者もグループホームに住めるようになってよかったと思っています。私たちもみんな で 横浜を明るい地域にしたいと思います。

大原友子

## 運営委員会の報告

大谷 友子

3月13日(土)、新田地区センターにてよつばホーム運営委員会が開催されました。委員会では第2館目に新しく入居する4人の紹介を初め、2館目設置の進捗状況の報告、16年度予算案等についての話し合いが行われました。

15年度については、体験入居が当初の予定数を越えて行われたこと、2館目の職員養成を兼ねた支援体制だったので、人件費が多くかかったこと等が報告されました。

また2館目に関しては図面が示され、リフトの導入は検討を重ねた結果、浴室と個室1箇所みの設置とし、その他今後必要になりそうな箇所については基礎工事のみを行なったことが話されました。次回4月20日(火)の運営委員会では、15年度の決算報告等が行われる予定です。

ともあれ15年度は大きなけがや事故もなく、無事に過ごせました。今後とも1館目、2館目ともに入居者にとって住みよい家になり得るよう職員一同励んでいきたいと思っています。

## 今月のよつばホーム

今月は、入居者の高畠 勢津子さんにグループホームの生活についてインタビュー形式でお話を聞きました。

Q. グループホームで約2年半、生活をしてきてどうですか？

A. 毎日、とても楽しいです。

実家のお姉さんには、物事に対する考え方が少し大人になったね、とか、他の人への気配りが出来るようになったねと言われていました。

Q. いままで、ホームシックになった事がありますか？

A. ないです。実家のお姉さんの事が心配になる事がありますが。

Q. グループホームと実家の違いは何ですか？

A. グループホームは賑やかで楽しい所です。外出する事も出来ますし。実家はやはり落ち着く所です。

Q. グループホームの食事はおいしいですか？

A. とても、おいしいです。

ゆっくりとTVを観て、おしゃべりしながら食べる雰囲気も好きです。

Q. 夕方、活動ホームから帰ると何をしますか？

A. みんなでお茶を飲んで、昼間の話等をしながら、その日の入浴の順番を決めています。ただ、入浴の順番決めには参加せず、いつも一番風呂の人もありますけどね（笑）その後は、部屋で体操をし、TVを観たりしています。

Q. 夜は何をしていますか？ また何時位に寝るのですか？

A. TVを観て、バイトの人や職員とお話しをしています。寝るのはだいたい23時過ぎです。

Q. 休みの日は何をしていますか？

A. 趣味でビーズを作ったり、本を読んだり、クロスワードパズルを楽しんでいます

◆最後に第2よつばホームのメンバーに一言お願いします

グループホームの生活は、最初のうちは不安な事も多いかもしれないけど、慣れるととても楽しいですよ。がんばって下さい。

近いから、休みの日は一緒に散歩でも行きましょうね